



「へっ……んは……」

セリカ・フリントは絶体絶命の危機にあった。
人類に敵対的な寄生生物、インフエスタ。
その襲撃に遭い、彼女はその巢の中で四肢を拘束されていた。



「一体私をどうするつもり……っ」

インフエスターが人間に寄生して怪物化させる事例はある。
しかし生け捕りにして巣に連れ去るなどという
行動は聞いた事がない。

焦る彼女はようやく自身の身体に起きこける異変に気づく。

「……………ん、これ……………スーツに根を張って……………」



「あ……待って……そなたは……」

意識を取り戻したセリカの元へ新たな形状の触手が接近する。
そしてそれは彼女の秘所目掛けて……。



「あっ……があっ……っー」
「う……嘘……これ……スーツ……っー」

セリカが身に纏うスーツは丈夫で伸縮性に優れた特殊な物だ。
だがそれが仇となり、スーツごと膣内へと侵入してくる
触手を防ぐことができない。
彼女は当然苦痛と嫌悪感で悲鳴を上げるが……。



「んえ……………」

細い触手がセリカの耳へと侵入すると、悲鳴の代わりに
甘い声が口から洩れはじめる。

「あ……………」
♡
「ん……………」
♡
「あ……………」

触手は脳へと侵入し、セリカ感覚を書き換えていく。
先ほどまで苦痛でしかなかった刺激も、すべてが快感
へと変換され……。

「あっあっあっ♡ ああああああああ♡」
♡♡♡♡♡



「はぁ……はぁ……あぁっ……」

セリ力が絶頂すると同時に、触手が彼女の身体に
体液を注入する。

「ス、スーツが侵食されて……」

「ふ……これっなんでっ 気持ちいいのぉ……っ」

侵食された部位は粘膜となって肌と一体化し、敏感な性感帯
となったかのような快感をセリ力に与える。

インフエスターによる責めは当然これで終わることとはなへ……。



「は……は……♡ あ……あお……♡」

数時間後、そこには幾度となく絶頂を味わい、ついにスーツの殆どを侵食されたセリカの姿があった。
もはやその身体に与えられる快楽は尋常なものではなく。
焦点の合わない瞳で絶頂を繰り返す彼女に、インフエスターは
とどめを刺すべく触手を這わせていく……。



「あ……♡ じ、わっ、わかるっ♡」

「私が……書か換えて……♡」

「……♡……♡……♡主人様に、都合のいい生体です♡」

脳を侵す触手によってセリカはインフェスターの狙いを知る。奴らは気に入ったセリカを知性の無い怪物に変えるのではなく、知識と記憶を保ったままインフェスターの手先へと造り変えるつもりなのだ。



「ああああああああ♡」

「イクッ♡イクッ♡ もっと♡ もっと♡」

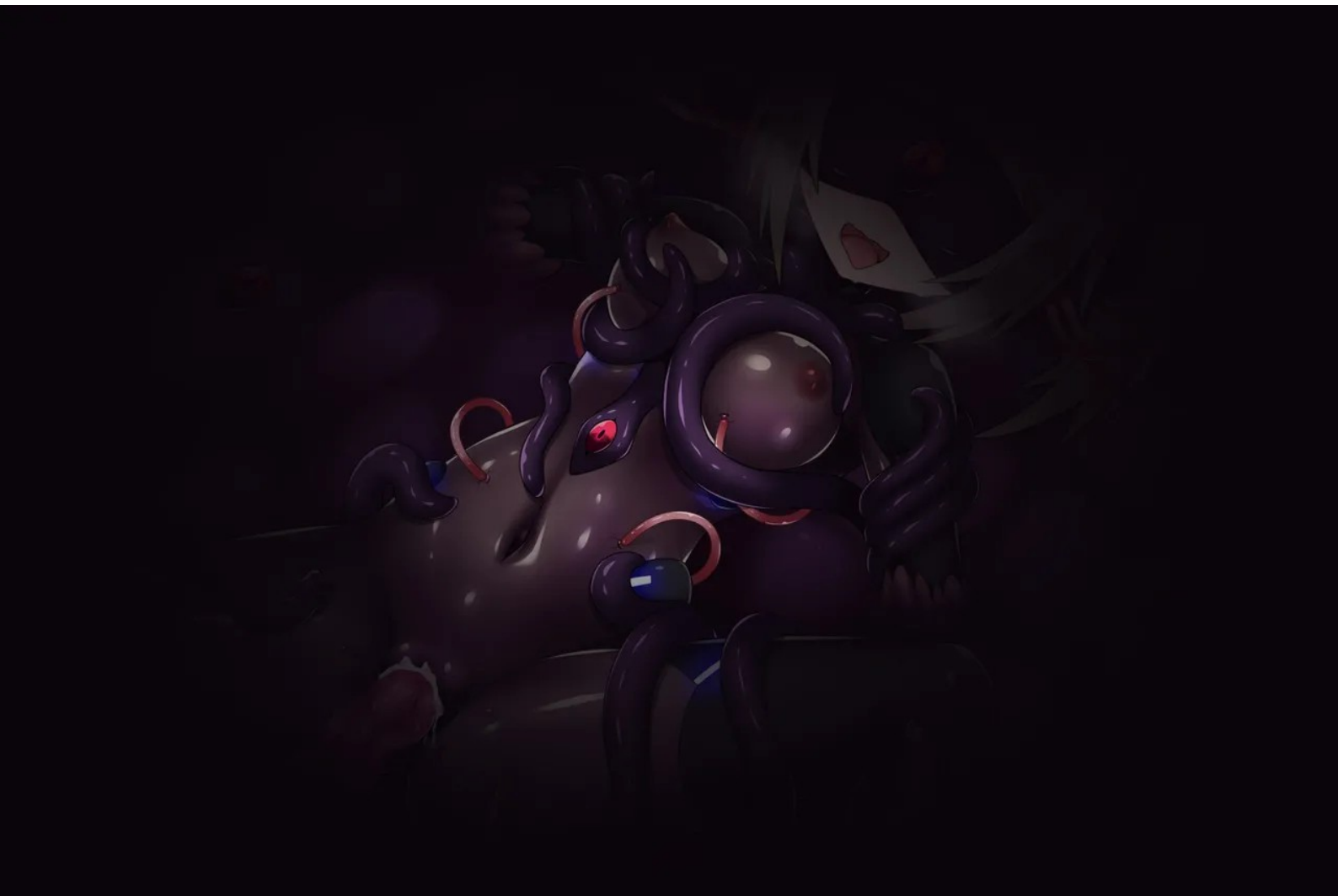
だが今のセリカはそれに恐怖を感じることも、
拒絶することも無い。
ただ与えられる快楽に身を委ね、主となる存在を
受け入れていく。

「あっあっあっ♡ 私が……私じゃ無くなって……」

「ああああああああああああ♡♡」

「♡♡♡♡♡」





生まれ変わったセリカが目を覚ます。
スーツを侵食し、寄生し、もはや彼女の身体と一体化した
インフェスターが再び彼女の耳へと触手を侵入させる。

「ん……ふふ……おはようございます、ご主人様」



「ああ……伝わってきます……」

「頭の中に、ご主人様の意思が……」

インフエスターは発声器官を持たないが、その道具として生まれ変わったセリカは触手を通して脳内で直接その意思を感じ取ることが出来た。

「はい……私はご主人様に洗脳して頂き、ご主人様の奴隷へと生まれ変わることが出来ました……」
「それで……その……ご主人様……♡」



そしてセリカと繋がったインフエスターもまた、彼女の望みに応えるべく触手をその秘裂へと伸ばし……。

「んいはい♡ ご主人様がつ♡ 挿入ってっ♡」

人間の身体では味わえなかった強烈な快感がセリカを貫く。今の彼女の頭の中にあるのは快楽、そして主への愛と忠誠心だけだった。

「ご主人様♡ お願いしますっ♡ 奥につ♡ 子宮にっ♡」



触手から放たれた体液がセリカの子宮を満たしていく。
そして彼女の下腹部、子宮の位置にハートのような紋様が
浮かび上がる。

「♡♡♡♡」

セリカの脳内にある愛情や快楽のイメージを元にした、
インフェスターの所有物である事を請示する墮落の証だ。



「はーっ…… はーっ……♡」

「ああ……これがご主人様の所有物である証……」
「素敵です……♡」

「はい……もっとご主人様の奴隷を……」

「ふふっ……すようじい子が居ます♡」

「待っててね……あなたもご主人様のモノだ……♡」

























